

第 42 回奈良市子ども・子育て会議 会議録			
開催日時	令和 8 年 2 月 19 日 (木) 午後 1 時～午後 2 時 40 分		
開催場所	オンラインを併用したハイブリッド形式 ※本会場は奈良市役所 中央棟 3 階 災害対策本部会議室		
出席者	委員	大方会長、清水副会長、大向委員、國原委員、栗本委員、櫻井委員、重松委員、白井委員、辻中委員、西山委員、村井委員、山野委員、渡邊委員 【計 13 人出席】	
	事務局	【子ども未来部】 保田子ども未来部長、玉置子ども未来部次長、田村子ども未来部参事、松田子ども政策課長、譚田幼保こども園課長、中村子ども給付課長、小島子ども育成課長、片岡子ども安心課長、浦一時保護課長、岡本子ども家庭支援課長 【保健所】 米野母子保健課長 【教育委員会事務局】 土田教育政策課長、原田放課後児童育成課長、中西学校教育課長補佐	
開催形態	公開（傍聴人：0 名）	担当課	子ども未来部子ども政策課
議題 又は 案件	1 審議案件 (1) 令和 8 年度奈良市子ども会議について (令和 7 年度実績報告も含む) (2) 第三期奈良市子ども・子育て支援事業計画（奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン）の関連事業について (3) 令和 8 年度奈良市保育・教育体制の提供について		
決定又は取り 纏め事項	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良市子ども会議の実績および次年度の開催に向けて、その内容について確認およびご意見いただいた。 ・第三期奈良市子ども・子育て支援事業計画の関連事業について、ご意見に対する回答をとりまとめた資料を提示しご意見いただいた。 ・令和 8 年度奈良市保育・教育体制の提供について、資料を提示しご意見いただいた。 		

議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等

1 審議案件

(1) 令和8年度子ども会議について（令和7年度実績報告も含む）

・事務局より、資料 2-1 および 2-2 に基づき、令和7年度子ども会議の満足度や意見内容、令和8年度のテーマを「外国人と素敵な関わり方」とし開催スケジュール案を説明した。

・委員より、貧困家庭の子どもなど多様な家庭状況の児童参加について、今後の考慮や対応の有無を問う意見があった。

・事務局より、参加者の家庭状況の詳細把握は難しいが、ひとり親家庭支援等や SNS で広く情報提供し、多様な参加を募っていると回答した。

・委員より、参加者数が年々減少傾向にある印象を述べ、告知方法・伝達ルート・伝える内容の工夫で参加者増加を図るべきとの意見があった。

・事務局より、各種 SNS に加え「さくら連絡網」等の保護者への直接通知を検討していると回答した。

・委員より、参加した子ども自身の声を選択肢先出しではない自由回答で直接聞き、集客やフィールドワークを検討してほしいとの意見があった。

・事務局より、フリースクール等へのアプローチや他部署と調整しつつ子ども主体の手法を進めたいと回答した。

・委員より、SNS 発信が公立・私立・国立の各校や保護者へ均等に届いているか確認を求める意見があった。

・事務局より、SNS は登録者向け、さくら連絡網は市立学校の保護者向けに配信しており、しみんだより等でも周知していると回答した。

・委員より、私立学校への周知（チラシ配布等）も含め広報経路を拡大すべきとの提案があった。

・事務局より、私立学校等へのチラシ配布の実績を確認し、今後も検討すると回答した。

・委員より、会議で出た意見が実際に行政で実現した事例が見える化し、子どもたちにフィードバックして「自分の意見が反映された」と実感させるべきとの意見があった。

・事務局より、実績はホームページ等で公開しているが、進捗の見える化やフィードバックの質向上をさらに進めたいと回答した。

・委員より、テーマ「外国人と素敵な関わり方」について、外国人ゲストの検討状況を問う意見があった。

・事務局より、ゲスト参加や留学生へのインタビュー等を検討していると回答した。

・委員より、奈良市子ども・子育て会議への中高生の参加について負担や実効性を踏まえつつ今後の検討状況を確認する意見があった。

(2) 第三期奈良市子ども・子育て支援事業計画（奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン）の関連事業について

・事務局より、資料 3-1 に基づき、令和 6 年度実績を踏まえ目標値の見直しおよび量的指標から質的指標への一部変更について説明した。

・委員より、指標表記の変更が大きいと、変更点を詳しく説明してほしいとの要望があった。

・事務局より、全事業について目標値変更の理由を個別に説明した。

・委員より、指標変更が実績に近い質的指標へ移行した点は評価する意見があった。

※以下、各事業について意見があったが、担当部署が不在のため、「事務局から確認のうえ回答する」と説明した。

・事業番号 68 番（スクールソーシャルワーカー）について、評価を「質的評価」と表現しているが現状は比率（量的評価）であるため、表現を正確にすべきとの指摘があった。

・事業番号 6 番（放課後子ども教室推進事業）および事業番号 55 番（地域で決める学校予算事業）について、事業名は異なるのに指標が同じになっている意図の確認を求める意見があった。

・事業番号 126 番（家庭教育支援事業）について、指標である満足度は既に高水準（91-93%）であり、さらに上げる目標の妥当性について懸念を示す意見があった。

・事業番号 68 番（スクールソーシャルワーカー）の「好転した件数の割合」目標が現行実績（7.2%）に基づく設定だが、目標 10%は低すぎるのではないかとの懸念が示された。

・同事業について、好転率の算出が延べ件数ベースか実数ベースかで結果が異なるため、算出方法の明確化を求める意見があった。

・事業番号 6 番（放課後子ども教室）の保護者周知やボランティア確保の課題（新 1 年生保護者への周知不足等）について改善を求める意見があった。

・事業番号 139 番（交通安全教室の開催）について、理解定着の観点から放送ではなく実地開催すべきとの意見や、放送実施の場合の到達度評価への懸念が示された。

・事業番号 68 番（スクールソーシャルワーカー）における評価の客観性について、誰が判断するか、基準の明確化の再検討を求める意見があった。

・指標未設定の項目については継続的に見直しを行い、必要ならルーブリック等の質的評価手法も導入すべきとの提案があった。

・事業番号 67 番（いじめ等に関する相談）の指標について、相談できた割合を早急に 100%に近づける検討が必要ではないか、また家庭教育支援事業は満足度だけでなく困っている人が参加できているか（参加者数・参加率）を指標にすべきとの意見があった。

（3）令和 8 年度奈良市保育・教育体制の提供について

・事務局より、資料 4-1～4-4 に基づき、令和 8 年 4 月の保育所等定員、新規認可施設の状況、および「こども誰でも通園制度」の本格実施等に伴う計画改訂について説明した。

・委員より、資料の凡例の意味がどこに示されているかを問う意見があった。

・事務局より、資料の凡例について回答した。

・委員より、日本版 DBS（こども性暴力防止）への対応や保育士の性犯罪に対する証明の扱い等、法令対応の確認を求める意見があった。

・事務局より、令和7年4月施行の「こども性暴力防止法」に基づき、令和9年4月完全実施へ向け関係機関への周知と準備を進めていると回答した。

・委員より、全国的な保育事業の厳しさ（園の減少・職員確保の困難等）を踏まえ、定員増等の将来計画が持続可能かについて検討を求める意見があった。

・事務局より、人口減少で利用申込者数は減少傾向だが、共働き世帯の増加で利用率が上昇しており、定員割れ園は地域ニーズや職員確保等を見極めつつ適切に定員管理・民間移管等して対応すると回答した。

・委員より、新設園等の審議がこの会議体で行われるのか、また認定こども園の指導計画等の確認がどの段階で行われるかを確認する意見があった。

・事務局より、法令に基づき新たな定員設定等は本会議で審議する規定であり、認可に当たっては多数の基準適合を事務局で詳細に確認し、主な項目についてのみ会議資料としていると回答した。

・委員より、乳児等通園支援事業の条例公開状況について公開が遅れている懸念を示す発言があった。

・事務局より、条例は既に公布・施行されており、周知をさらに進めると回答した。

・委員より、試行事業での運営上の課題（慣れない子への対応の必要性など）を指摘し、現場での対応力確保（研修・巡回指導等）を求める意見があった。

・事務局より、国資料や市独自の研修、巡回・指導を通じて適切な運営支援を行うと回答した。

資料	【資料1】奈良市子ども・子育て会議委員名簿 【資料2-1】令和7年度奈良市子ども会議報告書 【資料2-2】令和8年度奈良市子ども会議開催案 【資料3-1】第三期奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業指標および目標値一覧表（修正分抜粋） 【資料3-2】第三期奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業指標および目標値一覧表 【資料4-1】令和8年度奈良市保育・教育体制の提供について 【資料4-2】幼保連携型認定こども園の新設等について
----	---

	【資料 4 - 3】乳児等通園支援事業の新設等について
	【資料 4 - 4】乳児等通園支援事業の量の見込みと確保方策について